

平成 31 年度

事 業 計 画 書



学校法人 愛知享栄学園

平成 31 年度事業計画書

I. はじめに

私立学校を取り巻く経営環境は、経済状況や少子化による 18 歳人口の減少により、厳しさを増しております。

このような状況の中、建学の精神「誠実で信頼される人に」を大切にしながら社会に貢献できる人材を育成する教育を実践し、「選ばれる学校（園）」の実現を目指してまいりました。

昨年度は、念願であった享栄幼稚園園舎建替が完了しました。教育環境についても、専任教職員の増員、研修制度の充実により環境は整ってきました。

一方で、愛知県私立学校経常費補助金制度の変更、本年 10 月からの消費税率の引き上げも予定されています。

平成 31 年度は、下記基本方針を掲げ、全教職員一丸となって取組んでまいります。

II. 平成 31 年度基本方針

1. 基本方針

平成 31 年度も、引き続き「選ばれる学校（園）」の実現を目指し、教育力の強化、教育環境の充実に向け、諸施策を実行します。

- (1) 愛知県私立学校経常費補助金制度の変更により、次年度から学則定員を超えた生徒に対する生徒加算分が無くなるなど大きな影響が予想されます。将来を見据えた募集定員、募集戦略の検討を行います。
- (2) 教職員の増員、研修等により教育環境は整ってきましたが、人件費等支出も増加しました。
人件費等抑制のため、職員採用政策、早期退職制度等検討を行います。
- (3) 本年 10 月から予定されている消費税率の引き上げに対し、学園収入の増加、支出の削減について検討を行います。
- (4) 本年度は、主な施設・設備計画として、法人事務局棟の建設、栄徳高等学校の隣地造成等を行います。

2. 経営数値目標

指 標	平成 31 年度目標値	平成 30 年度目標値
①事業活動収支差額比率	1%以上	0%以上
②人件費比率	75%未満	75%未満
③管理経費比率	5%未満	7%未満
④人件費依存率	150%未満	150%未満
⑤基本金組入後収支比率	120%未満	125%未満
⑥引当特定資産繰入	学納金の 5%以上	学納金の 5%以上

III. 事業計画書

1. 学校法人

1. 財務

(1) 生徒数に見合った受入態勢整備のため、人員・設備計画を作成します。

(2) 本年度で施設、設備投資は一段落するが、栄徳高等学校の校舎が築後 36 年となるため、将来の建替えを見据えた計画の策定を行う。

2. 事務処理体制の改善

(1) 前期に引き続き、事務処理方法を均一化することにより互換性を向上させ、事務処理力の向上、事務の効率化を目指します。

(2) 部門間の交流を活発にし、OJTによる事務処理能力の向上をめざします。また、報告・連絡・相談により情報の共有化を図ります。

2. 享栄高等学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば学校が変わる。」を基にして、生徒一人ひとりを大切にし、自己実現を図ることができる教育を展開する。

「面倒見の良い学校」として、きめ細かく丁寧な教育をする学校、夢と感動のある学校、地域に評価される学校の3要素を目指す。

そのため、普通科・商業科・機械科の3科の特性を生かした学習の推進と共に資格取得の徹底を図る。

- ① 普通科：栄進文理コース　補習授業の内容を充実させ、生徒が主体的に考える内容を取り入れる。
特進飛翔・躍進選抜コース　校外学習を通じて英語力の強化を図る。
- ② 商業科：各種検定試験の合格者を増やすよう、教材を精選し学年をまたがった指導を行う。
- ③ 機械科：“ものづくり”を柱とした実験・実習等の体験的学習指導の充実を図るため、教員の一貫した指導を継続する。

(2) 自己点検と評価

- ① 年2回の研究授業週間と公開授業を実施する。
- ② 定期考查と課題テストに加え業者テストを採用し、入学してから卒業するまでの生徒の基礎学力の経年推移を確認する。
- ③ 年5回の研修会を通して行うテーマごとの意見交換で自己点検を行う。
- ④ 外部研修会に教員を出席させる。
- ⑤ 生徒の学習実態調査、生徒・保護者・近隣住民による学校関係者調査を実施し、その結果を分析又は参考にして学校運営・学習指導の改善を図る。

(3) 学習支援の推進

- ① 学習規律を徹底し、生徒に「わかる授業」を展開して学習実績を上げる。
- ② 朝学習・補習・補充を行い、基礎学力の定着を図る。
- ③ 年5回の土曜セミナーを開催し、生徒個々が興味のある講座に参加し、または講座を企画することで生徒の自己実現の一助とする。
- ④ 特進、躍進、栄進文理(スポーツコース)は海外での修学旅行を実施することにより、習慣の違いや歴史を学び、人格形成を図る。

(4) 教育のレベルの向上

- ① 毎週行う教科会議で、各担当の現状と問題点などの情報交換を行い授業にフィードバックする。
- ② 研修係が主催する研修会に毎年のテーマを設定し、場合によっては外部講師を招いて研修・確認・評価を繰り返し行う。
- ③ 大学や専門学校で校外授業を実施し、より細かな専門分野知識を身に付ける。
- ④ 初任者、経験者Ⅰ、経験者Ⅱ、主任者の経験や職責に応じた研修を行う。

2. 学生支援事業

(1) 生活の支援

- ① 部活動や生徒会活動を積極的に推進し、その活動を通じて自主性・協調性を養うことでの生徒間のリーダーを育成する。
- ② 年度当初から個人面談と保護者会を実施し、生徒の諸問題を学級にとどまらず学年や部活動を通じての指導に反映させていく。
- ③ 相談室を設け、専属の相談員による生徒のカウンセリングを行い、保健室と担任及び学年と連携し、その問題解決につなげる。
- ④ 登校下校時の生徒の安全を確保するため、最寄り駅からの数箇所で挨拶の奨励と立ち番指導を行う。
- ⑤ 享栄同窓会及びPTAからの奨学金制度の充実を図る。
- ⑥ 運動奨学生・学力奨学生・特別奨学生を認定し、模範となる生徒の増加を図る。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ① 従来の保護者会と学級懇談会に加え、年度当初に保護者会を行う。そのことによって担任と保護者の共通理解と協力関係を構築する。
- ② PTA活動を通じて、保護者が生徒との共有時間をもつことで学校教育への理解と支援の拡大を図る。
- ③ 「学習の手引」「進路の手引き」を印刷し、全生徒に配布する。

3. 教育環境の整備事業

- ① 情報実習室1のPC及び周辺機器の更新
- ② IT教育導入に向けての教員研修と機器の整備
- ③ 旧型洋式トイレの更新
- ④ 建物管理の徹底（修繕）

4. 地域連携・地域貢献事業

- ① 年5回「土曜セミナー」を実施し、地域の方々に講師や受講生として企画・参加していただき交流を図る。
- ② 地域の各種文化的行事に参加し、吹奏楽部やチアリーディング部の演奏・演技披露を推進する。
- ③ 生徒会を中心に瑞穂区の「ヤングサポーターみずほ」に参加。
- ④ 地域に定着した「街美ボランティア」に、生徒を中心に教職員一体となって参加する。

5. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ① 夏休みに行われる2回の体験入学会と10月下旬から行われる6回の学校説明会は、学校に触れるよい機会なのでその参加者の増加を図る。
- ② 秋の私学協会主催の「私学展」で、本校ブースへの訪問者数の増加を図るとともに、学校案内やポスター等での募集強化を行う。
- ③ 入試広報室員の担当地区で中学校長による連絡会を主催し、中学校の意見の集約と生徒たちの現況報告を行う。
- ④ 募集要項の印刷製本。

(2) 関係各所との連携

- ① 年間計画を作成し、中学校訪問を実施する。また、新入生はもとより2・3年生の近況報告等も行うことで情報交換をする。
- ② 各地域の私塾出身生徒の資料を持参し、広報活動を含めた募集活動を展開する。
- ③ 警察署・消防署・区役所等への挨拶をし、地域との連携を強化する。
- ④ 就職先及び進学先の範囲拡大を目指し、情報収集や連携を強化する。

6. 進路支援事業

- ① 「進路の手引き」を製本し、支援体制を強化する。
- ② 推薦入試枠等の拡大のため、大学訪問を強化する。
- ③ 面接指導や論文指導等を教職員で分担し、マナーと規律を学習させる。
- ④ インターンシップを段階的に実施し、職業観の育成、積極的な進路選択による学習意欲の向上、社会人としてのマナーの習得を図る。
- ⑤ ハローワークや企業の協力を得て、進路説明会等を開催する。

7. その他

- ① 部活動の強化をはかり、スポーツを通じて校名の浸透を促す。
- ② 通学経路の地下鉄構内の案内板や車両内放送等を利用して、本校の認知度を高める。

3. 栄徳高等学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

①愛知享栄学園の建学の精神である「誠実で信頼される人に」を校訓として、国際社会で活躍する生徒の育成を目指す。

《目指す学校像》

- ・夢を実現させる学校
- ・豊かな人間性を培う学校
- ・健康な心身を育む文武両道の進学校

②常に明確な目標をもち、真剣に事に当たる習慣をつけ、豊かな人間性、強い気力・体力、幅広い知性を身につけさせる。

③具体的な目標（栄徳五訓）を掲げ教育活動を実践し、生徒の育成に努める。

《栄徳五訓》

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 一 常に目的意識を持とう。 | ・自分の夢に向かって邁進する生徒 |
| 一 感謝の気持ちをこめて挨拶しよう。 | ・互いを認め、尊重し合う事の出来る生徒 |
| 一 学習、スポーツに頑張ろう。 | ・学習・スポーツに頑張る日に焼けた秀才 |
| 一 責任ある行動をとろう。 | ・何事にも真剣に事に当たる生徒 |
| 一 栄徳生としてプライドを持とう。 | ・自分の考えを持ち、表現できる生徒 |

《目指す生徒像》

④P D C A サイクル [Plan (計画) Do (実行) Check (評価) Action (改善)] を機能させ次回の効果的な実践につなげるため、計画書、報告書、評価・改善書の提出をする。

⑤平成 30 年度に、完成年度を迎えた「栄徳イノベーション」をさらに推し進め、生徒の実態に応じたきめ細かな学習指導の実践で学力定着度を図るとともに進路指導の実現を図る。

- ⑥新しい学習指導要領に向けた学習力（思考力・判断力・表現力）の向上を目指し、主体的な学習活動ができるような、新教育課程を来年度完成させるための委員会を立ち上げる。
- ⑦昨年度、第2学年に開設した国際言語クラスにおいてはじめての卒業生を輩出し、その進路実績を踏まえたより効果的な指導の在り方を工夫する。
- ⑧今後の生徒数が縮減する可能性を踏まえて適切な教員確保を図るとともに、一人ひとりの教育力向上を目指して様々な研修の在り方を見直す。
- ⑨図書館への来館者数の更なる増加で、読書週間の向上を目指すとともに、生徒全員が行っている読書感想文指導の在り方を改善し、読書に親しむ環境づくりを推進する。
- ⑩教育活動への信頼を得るため地域社会の様々な要請を受け止めながら、前例にとらわれず挑戦する姿勢を第一とする教員の育成に努める。

（2）自己点検と評価

- ①保護者の意見や地域からの要請に耳を傾け、生徒・保護者・教職員を対象とした「学校アンケート調査」、教職員による自己点検と学校評価を実施し、次年度の学校経営に反映させる。
- ②校務分掌組織ごとに明確な目標（できる限り数値目標）をもって業務を遂行し、年2回の定期的な振り返りを基に調整改善を図る。各分掌の重点目標の推進にあたり、確実にその成果を上げることができるように、常時運営委員会で関連情報を共有する。
- ③公開授業、学級懇談会、保護者会のみならず、日常生活の中で、学校に届く保護者や生徒の声を真摯に受け止めるため、迅速な報告と丁寧な情報共有を図る。
- ④年度末に各分掌、各教科で1年間の総括をして次年度に備える。

（3）学習支援の推進

- ①落ち着いた活気のある授業を展開し、生徒一人ひとりの前向きな参加を促す。
- ②生徒一人ひとりへの丁寧な指導で、各自が夢と目標を持ち進路希望の実現を図る。
本年は特に課題提出や指導の後の評価を丁寧に行う。
- ③学力不振の生徒に対しては、定期考查や外部模試の結果に基づき「基礎力強化学習」を定期的に実施し、基礎学力の向上を図る。
- ④各コースに応じた教育課程の編成と計画的な補習を通して、学力の向上を図る。
 - ・平成31年度は1年Super文理クラスを2クラス、選抜クラスを3クラス、進学クラスを7クラス予定している。2年Super文理クラス2クラス、選抜文理クラス2クラス、国際言語クラス1クラス、進学クラス7クラスを編成する。

3年 Super 文理クラス 2クラス、選抜文理クラス 2クラス、国際言語クラス 1 クラス、進学クラス 7クラスを編成して、各学年 12 クラス、全 36 クラスを予定している。

- ・コース、クラスが多岐に亘るので補習の形態をクラス単位の補習と、講座制の補習を展開する。

- ・中学校での学力が不足している 1 年生を対象にリメディアル講座（補習による学び直し）を開講し、本校での学習活動が円滑に進むようにサポートする。

⑤Super 文理クラスの 3 年生を中心に、センター試験二次試験に向けて特別時間割を組むとともに、外部講師による補習を実施して、更なる進学指導の充実を図る。

⑥1 年選抜クラスの数学 I と英語表現 I の授業は同時開講の習熟度別授業を展開し、早期から国公立大学受験者の増員を図る。2 年選抜文理クラスでは、数学 II、英語表現 II で 2 クラス 3 講座の習熟度別授業を展開し、3 年選抜文理クラスにおいて英語表現 II で 2 クラス 3 講座の習熟度授業を継続する。

⑦3 年 Super 文理クラス及び選抜文理クラスの文系生徒を対象に学校設定科目（化学基礎演習、生物基礎演習、地学基礎演習のうち 2 科目選択履修）を設けて、国公立受験対策をする。

⑧全校コンテスト（英単語力、国語漢字・古典単語）を計画し、スキル的学力の向上を図る。

⑨学習支援ソフト（スタディサプリ、classi）を利用して、生徒各自が学習できるよう側面から支援する。

（4）教育のレベルの向上

①新たな栄徳教育システムをさらに改善し教育の一層の充実を図るために、新教育課程の検討と合わせて、本校の教員研修の在り方を検討する。

②平成 32 年度から始まる「大学入学共通テスト」に対応すべく思考力・判断力・表現力を育む学習指導方法の研鑽に努める。

③主観的・対話的な学習方法や更に深い学びを可能にする授業研究に努め、魅力ある分かる授業の展開を図る。

④現職教育を通して正しい教育観を身につけ、教員としての資質の向上を図る。

⑤初任者研修会を毎週実施し、教師力の向上に努める。

⑥経験者教員研修会を実施し、更なる教師力の向上に努める。

⑦教育力向上のため、外部指導講師を招いた研究授業を年 2 回計画的に実施して、積極的に教師相互の研鑽に努める。

⑧グローバル化に対応するため、新たにアメリカに姉妹校を設けるとともに、英語教員にとどまることなく教職員の英語資格検定資格試験の受験を推進すると同時に、奨学制度を設けて奨励する。

- ⑨学外での研修会等に参加し教育力向上に努める。
- ⑩学校視察を積極的に行い、常なる向上を目指す。

2. 生徒支援事業

(1) 生活の支援

- ①生徒それぞれの悩みを受け止め、一人ひとりが尊重される安心安全な学校づくりを目指す。
- ②様々な学校行事や特別活動を通して生徒の自主性や協調性を育む。
- ③きめ細かい生活指導を通じて、けじめのある躾教育をする。特に、自律心を育む教育を推進する。
- ④安全で安心して通える学校であるとともに、県内で最もマナーの良い学校を目指す。
- ⑤“いじめ”的防止、早期発見のための措置、相談・支援等を整備して“いじめ”に対する対策を推進する。
- ⑥交通安全指導の徹底、サイバー犯罪防止、薬物乱用防止等、学内だけでなく社会生活を営む上での安全指導にも取り組む。
- ⑦個人面談を通して、生徒の学校生活や学習指導をサポートし充実した毎日が過ごせるように努める。
- ⑧特別支援教育の推進のため、校内委員会を設置し支援体制を構築する。
- ⑨カウンセラーを配置して、生徒が気兼ねなく相談できる環境を整え、生徒の心理的な発達を援助する。
- ⑩外国籍の留学生を積極的に受け入れ、多様な価値観が共有できる環境づくりをする。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ①PTA活動や保護者会、進路説明会等の様々な機会を設け、協力関係の構築に努めるとともに、文化祭・体育祭等生徒の素顔に接することができる学校行事への参加を呼び掛ける。
- ②PTA委員会活動(広報専門委員会、生活指導専門委員会、部活動専門委員会)を通して、保護者の方々との連携を図る。
- ③公開授業や学級懇談を通して、保護者の方々の率直な本校教育活動に対する意見を集約し反映できるように努める。
- ④保護者宛文書(教育相談の案内、図書だより、生活指導だより、保健部だより、授業料補助の案内等)を分かりやすくするとともに、メール配信を利用して保護者との連絡の徹底に努める。

- ⑤保護者を対象にしたアンケート調査を基に、学校の改善に努める。
- ⑥希望される保護者には、保護者を対象とした教育カウンセリングを実施し、学校と家庭の協力の下で生徒の育成を図る。

3. 教育環境の整備事業

- ①本年予定されている駐車場近くの造成事業によって、日常の教育活動に支障が出ないように創意工夫する。
- ②タブレットやスマホ等の I C T を活用した学習サポート体制の更なる充実を図る。また、 P C での I C 指導を進めるためマイク・イヤフォン・カメラ等の充実を図る。
- ③現在使用中の Windows7 が使用できなくなるため、 O S の入れ替えを計画的に進める。
- ④生徒の出席管理・成績管理・各種証明書発行等のデータ処理がスムーズに行われるように教務システムのカスタマイズを行い指導に役立てる。
- ⑤中・長期的視野で清掃等の行き届いたきれいな校舎にすることを目標に、教育環境の更なる充実と明るく活力ある学校を目指す。トイレは業者に委託して美化に努める。

4. 地域連携・地域貢献事業

- ①地域の要請に基づく学校開放（グランド・体育館等）を積極的に行う。
- ②医療センターと連携し、救命講習（心肺蘇生法の習得と A E D の取扱い）を実施する。
- ③クリーンアップキャンペーン（清掃奉仕活動）を通してその意義を理解させ、奉仕の精神を育む。
- ④地域の社会福祉協力校として、地元と連携して地域主体の諸活動に積極的に参加する。
- ⑤学校周辺の博物館等を利用して生徒の見識を広めるとともに、地域との連携を深める。
- ⑥吹奏楽部・ボランティア部・ダンス部・生物部等、部活動では地元との繋がりを大事にした活動を行う。

5. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ①今後、学則定員に沿った生徒募集になることから、より本校に相応しい生徒の確保を行う。
- ②学校案内やホームページを更新することを通して、広く新しい情報を発信して

- いく。そのため、学校をアピールする情報を生徒・教員から積極的に収集する。
- ③生徒募集の目標数値を明確にする。特に Super 文理の推薦者、一般受験者数の増大を図る。
- ④文化祭等の行事に近隣の中学生を招待し、開かれた学校をアピールする。学校見学会等においてはパワーポイントの有効利用や学校紹介ビデオ等の作成をとおして、本校の魅力を積極的にピアールする。
- ⑤中学生や保護者を対象とした学校見学会や説明会の他に、学外会場を設けて学習塾を対象とした学校説明会を実施し、本校の教育を広く紹介していく。
- ⑥学校行事や各説明会に参加した生徒への事後コンタクトを大切にし、面倒見の良さをアピールし学校への信頼度を高める。
- ⑦在校生の満足度を高めることが生徒募集につながるとの観点から、生徒へのアンケート調査を実施し、調査結果をふまえて学校生活が快適に過ごせるよう学校環境整備に努める。
- ⑧ネット出願が円滑に実施できるように準備する。

(2) 関係各所との連携

- ①中学校・塾だけでなく競合相手となる他の高校の情報データをしっかりと把握・蓄積し、データに基づいた戦略的な広報活動を行う。
- ②中学校との連携は広報職員による新入生の詳細な近況報告のほか、本校の近況報告を綴ったミニ新聞を作成し、配布することで本校教育活動の理解を求める。
- ③中学校教員対象あるいは塾講師対象の説明会への参加者数を増やすために、効果的な設定の時期や場所を工夫する。
- ④帰国子女を含めた多様な生徒の受け入れを見据えて、関係各所との連携を密にする。
- ⑤学校行事等を一般新聞等に積極的にアピールして宣伝に努める。
- ⑥地域の主催行事に積極的に参加して本校をピアールする。
- ⑦藤が丘駅や長久手イオンモール等で効果的な宣伝を実施する。

6. 進路支援事業

(1) 進路指導の充実

- ①自己実現のための進路観や職業観を育成し、進学・就職指導を具体的に推し進めるための「進路カリキュラム」の実践に当たり、1・2年生で実施する「総合的な探求の時間」の活動を中心に据えて展開する。
- ②インターンシップを実施し、職業を体験することで社会に対するものの見方を養い、進路意識の向上、学習意欲の向上を図る。
- ③国公立大学25名、難関私立大学30名の目標到達を図るため、Super 文理ク

- ラス及び選抜クラスの指導体制を見直し、より効果的な組織に改編する。
- ④G TZ（学力到達ゾーン）を利用し、進学に対する意識高揚を図る。
 - ⑤大学・短大・専門学校ガイダンス、キャンパスライフ体験学習等の進路行事を利用して進学に対するモチベーションを高める。
 - ⑥学習支援ソフトの有効的活用ができるように指導し、基礎学力の向上、受験学力の養成に努める。
 - ⑦Super 文理クラスでのクラス単位の進学補習（二次試験対応も含む）と、講座制進学補習を併用して、より効果的な進学補習体制を確立する。
 - ⑧大学との高大連携プログラムを開催して、大学の教育研究に触れる機会を促進し、大学で学ぶ意義の認識、進学意欲の高揚を図り、進学指導・学習指導に役立てる。

（2）進路情報の共有化

- ①クラス・コースごとの生徒情報と入試情報を、担任と担当者だけではなく学年全体・学校全体で共有し、検討することで進路目標を達成することに努める。
- ②学年ごとの進路ガイダンスを実施し、生徒の的確な進路情報を提供する。
- ③保護者を対象とした進路説明会を実施し、進路情報を提供するとともに家庭での進学支援を求める。
- ④進路実現にむけて、担任・教科担任や学年会と連携して進路指導を推し進める。
- ⑤基礎学力診断テストの分析検討会を実施し、生徒の学力の現状と問題点を洗い出し、学習指導に反映させる。
- ⑥入試研究会等に参加し、最新の入試情報を入手し生徒に提供できるように努める。

7. その他

- ①「栄徳イノベーション」が3年を経てその成果があらわれる年である。社会や時代の要請、地域や中学校の要求に応える「新しい学校づくり」に向けてさらなる挑戦をしていく。
- ②教職員の「働き方改革」の視点から、教育内容の精選と労働生産性の向上を目指す。

4. 享栄幼稚園

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

「誠実で信頼される園に」を建学の精神に掲げている本園は、この理念に基づく教育方針、重点目標を発達段階に応じて取り組んでいく。その中で、集中力、理解力、表現力、コミュニケーション力、体力の5つの力を育てるため、計画的な指導をする。

また、子どもたち、保護者、地域から信頼、親しまれるよう全教職員の資質向上のため日々研鑽努力する。

また、本年度は新園舎において、より一層地域に根差した幼稚園づくりを行う。

(2) 自己点検と評価

評価項目（チェックリスト）に沿って学期毎に自己点検、自己評価を行い教師自らが客観的に指導や関わりを省みる。目の前の子どもの姿に学び、同僚の仕事ぶりや言葉を注視し、時には保護者や地域の皆さんとの視線に立って子どもたちを見つめてみる。

そして保育環境や保育教材、素材についても工夫しながら学び続けていく。

(3) 学習支援の推進

絵本などの蔵書を増やし、本にふれる機会を増やす。新園舎のオープンスペースに設置された図書を開放し、子どもたちが好きな時間に自由に本に向き合う習慣を作る。また、Wi-fi 環境を活かし、子供たちがより多くの絵画にふれられるようにする。

(4) 教育のレベルの向上

教職員自身が最大の教育環境であると一人ひとりが自覚し日々の研鑽に努める。

外部講師による園内研修を行う。外部研修参加や他園への見学、合同研修の実施。

2. 園児支援事業

(1) 生活の支援

子どもの家庭環境、生活環境を把握し、一人ひとりの理解を深める。特別支援の必要性がある場合は、園医や心理士と相談し支援をする。育児相談やカウンセリングがいつでも受けられる体制にする。また、預り保育専用の教室ができたことで、作品を飾るなど落ち着いた環境で安心して過ごせるようにする。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

H P やメールマガジンを有効活用し、園だより、クラスだよりを含め園からの発信をできるだけ多くして、園の教育活動と子どもの様子を詳しく伝える。
母の会が行事に参加し、援助することにより、園理解に繋げる。
送迎時保護者とコミュニケーションをとることで信頼につなげる。個人記録を活用し担任と家庭とで様子を交換し、家庭と園の子どもの様子を共有する。

3. 教育環境の整備事業

新園舎の学習・生活環境を活かした本園ならではの「学習スタイル」「遊びスタイル」の確立を目指す。新園舎スロープを活用して体育活動、遊びの充実に繋げていく。新しい遊具の使い方を学び、安全に遊ぶなかで体力をつける。プロジェクター、ビックパットや ipad 視聴覚教材の活動を増やし、子どもたちの発想や表現の向上を促す。

4. 地域連携・地域貢献事業

11月に行われるバザーを通じて保護者や近隣住民とのふれあいの場を作る。
年3回の園庭開放を実施する。行事毎に近隣の方に手紙を配布していき、園への理解を深め、交流する機会を作る。

5. 園児募集・入試に係る事業

(1) 園児募集活動の強化

6月から7月にかけて10回程度見学会・説明会を行い次年度園児募集を計る。10月受付とする。

7月には「みんなの広場」を開催し教職員が未就園児といろいろなコーナーで楽しく過ごし、幼稚園や教職員に親しむ1日にする。また、保護者に対しては相談コーナーを設け質問や悩みに答える。募集に関して現在最も大切なのは、2歳児のプレ教室であるため、園児募集は1年前の未就園児教室募集が重要である。9月に見学会・説明会を行い園の教育方針を理解し賛同していただく。個人見学も隨時行い、11月に入会受付とする。

(2) 関係各所との連携

問題を抱えている子どもが増えていることから、問題に応じて、専門家の意見を聞く。園医、心理学博士、児童相談所等との連携を密にして、子どもの安全・幸せの確保に務めていく。

6. 進路支援事業

幼・保・小連携の推進のための支援のあり方を検討する。

- ①幼・保・小連絡会会議にて入学前に個々に育ちの様子を伝えていき、学校からの話も伺い就学の準備をする。
- ②地域の小学校を訪問し、遊びに行き学校に親しみを持ち、不安のないようにしていく。

7. その他

新園舎の環境を十分に活かした享栄幼稚園の教育ビジョンを構築していく。

新園舎に合わせた防災・防犯態勢を整える。